

**小野町「(仮称)小野町児童館(放課後児童クラブ等)基本・実施設計業務委託」  
簡易型設計競技審査委員会 審査講評**

1. 審査経過

本簡易型設計競技(以下、「設計競技」という。)は小野町と福島県建築設計協同組合が締結した「(仮称)小野町児童館(放課後児童クラブ等)基本・実施設計業務委託」の設計担当者を選定するためのものであり、各分野を代表する5名の審査委員による審査委員会を設置し、慎重かつ厳正な審査を行った。

現在、小野町が運営している放課後児童クラブは、小学校の統廃合に伴い早急な施設整備が求められていた施設であり、今回、小野小学校の隣接地である旧幼児教育施設跡地の約5,500㎡の敷地にW造又はS造平屋建て、延べ床面積約650㎡の施設として計画されたものである。本設計競技の提案に際しては配置図、平面図、立面図以外に、設計趣旨として、①配置計画について、②平面計画について、③立面計画について、④工事費概算書について求めている。

7/10(月)に小野町多目的研修集会施設で標記設計競技の第一次審査会を開催した。はじめに、コロナ禍の中ではあるが公開審査とすること、全応募者の提案評価を行うこと、評価は総合評価で行うこと、第二次審査対象者(ヒアリング要請者)を選定すること、選定は投票を参考に行うことなどを確認した。

次に、応募のあった6者の技術提案書について失格要件該当の有無を確認した。事務局報告に基づき、図面の寸法表示cmがmm、外部物置の表示なし等については審査対象としたものの、受付番号③については提案書に記載すべき工事費概算額が本設計競技実施要領で示した想定工事費を大幅に超える額での提案となっていることから、審査委員会による協議対象案件として審議した。結果として、提案書に記載すべき「提案設計図の条件」に関する内容のすべてが工事費概算額に影響するとの結論から「審査対象外」と判断した。

次に、審査員にはそれぞれの専門的立場から5者すべての提案書について意見を述べた。敷地内の建物、園庭、駐車場等の配置計画や施設内の所要室の関連性と動線計画、出入口までの利用者動線と防災対策、周辺環境への配慮、ランニングコストと省エネ対策等のコスト管理の考え方などについて意見が交わされた。

その後、ヒアリング要請者の選定作業を行ったが、審査対象となった5者それぞれに特色があり、似通った提案がないことから、5者すべてをヒアリング要請者として選定した。

7/18(火)に前回と同様に小野町多目的研修集会施設で第二次審査会を開催した。審査に先立ち11時から二次審査の進め方等について審議した。ヒアリングは1者25分(説明10分、質疑15分)で進めること、5者ヒアリングを実施した後、最優秀提案者及び優秀提案者の選定作業を行うこと、選定は投票結果を参考に意見交換を行い必要に応じ再投票を行うことを確認した。なお、前回同様、第二次審査も公開で行った。

プロジェクターを使っての提案者説明の後、第一次審査で意見交換が行われた点を中心にそれぞれの審査員の立場からの質疑応答が行われた。

5者のヒアリング終了の後、最優秀提案者及び優秀提案者の選定作業に入った。委員長提案により最優秀候補者◎、優秀候補者○の2者選定方式による審査員無記名投票を行った。

その結果、受付番号①が〇1票、受付番号②が〇1票、受付番号④が◎1票、〇2票、受付番号⑤が◎1票、〇1票、受付番号⑥が◎3票となりました。これらの投票結果を受けて審議を行った結果、受付番号⑥を最優秀提案者に、受付番号④を優秀提案者に選定した。

## 2. 審査結果

最優秀提案者：エーユーエム構造設計(株)

優秀提案者：(株)共立建築設計事務所

## 3. 審査委員会の構成

審査委員長：森山 修治（日本大学工学部：教授）

審査委員：宮崎 渉（日本大学工学部：専任講師）

審査委員：先崎 秀一（小野町：子育て支援課長）

審査委員：矢吹 浩司（小野町：地域整備課長）

審査委員：中山 武徳（(株)中山建築研究所：代表取締役）

## 4. 講評

最優秀提案者

受付番号⑥

この案は、敷地北から南側に施設を敷地内斜めに配置することで、建物と山の離隔距離を確保するとともに敷地西側に児童の広場と幼児の広場、東側に駐車場、南端に地域の広場を配置し児童・幼児ゾーンとその他のゾーンを分離している。児童の通学路は公園をイメージさせる計画になっており、児童は下校の途中に自然な形で施設の玄関に導かれる。車両の入り口は敷地南東端の県道に設けられており、児童の動線との分離が図られている。駐車場はマイクロバス・職員・一般と駐車スペースが3つに分離されており、車路はマイクロバスの転回に十分な広さが確保されている。サービス車は、敷地内の車路を通して建物北東側の通用口や北端角の調理室まで児童の動線と交わることのないように計画されている。敷地内には、児童の広場・幼児の広場以外に待合の広場と地域の広場が設けられており、待合の広場は児童のお迎えの保護者の憩いのスペースとなっており、施設内の多目的ホールと一体でマルシェなどの地域開放ができるように計画されている。地域の広場には遊具が再整備され、バス待機の児童への配慮がなされている。建物構成としては、切妻状の屋根の児童クラブ・主室（第3の居場所）棟と子育て支援施設棟の2棟が玄関ホールを挟んで斜めに接続されているシンプルかつ明確な建物構成である。事務室と玄関ホールを中央に配置することで、施設内への人の出入りと一般者も利用する多目的ホールを管理できる施設構成となっている。児童クラブと主室（食堂）は収納棚に囲まれた3つの小空間（デン空間）である収納棚で緩やかに隔てられている。児童クラブと主室には、それぞれ職員スペースが計画されており、静養室も児童クラブの職員スペースに接して配置するなど安全面への配慮もうかがえる。子育て支援ゾーンには、多目的ホールや図書スペース・一時預かり室等が配置されており、保護者や一般住民にも開放できる馴染みやすい空間であり、玄関ホールや事務室により学童クラブと切り離されるとともに、事務室から管理しやすい構成となっている。室内空間についても、多目的ホールや学童クラブ等の天井材を不燃材料とすることで壁面に木

を採用し、内装制限を守りつつ親しみのある空間となるように工夫されている。また、庇を深くすることで日射を遮断しつつ、開放可能な大きな窓により自然の光と風を部屋に引き入れる計画となっており、ランニングコスト削減への配慮がなされている。多目的ホールや学童クラブ室の床吹出空調は、冬には床暖房の効果もあり、床に接することの多い学童や幼児に適した空調システムである。ヒアリング時には、工事費について月1回の概算の見直しをするなどのコスト管理の工夫が述べられた。また、基本設計や実施設計において、小野町と十分なコミュニケーションを行う等の施設利用者の要望への配慮がうかがえた。そのため、今後に予想される課題、例えば、フェンスの設置位置や付け替え道路の利用、土間の在り方等についての調整が必要と考えるが、小野町の考えに添った柔軟な対応が期待できる。

提案書とヒアリング内容を通して、魅力ある“小野町児童館”の実現に向けて、現段階での計画案の機能性と提案性および設計業務を推進するうえでの姿勢が高く評価され、最優秀提案者となった。

#### 優秀提案者

##### 受付番号④

この案は、敷地北側に施設を配置することで、建物と山の離隔距離を確保するとともに敷地中央部に園庭と屋外ステージを配置し、建物と園庭・屋外ステージをフェンスで囲むことで児童の安全性を確保している。敷地内南西側に県道から小学校への通学路となる歩道が直線的に設けられており、児童の施設への入り口は歩道に近接する施設南西側に設けられている。車両の入り口は敷地南東端の県道に設けられており、児童の動線との分離が図られている。駐車場はマイクロバスと一般の駐車スペースが分けられている。サービス出入口は施設北西端に設けられており、学童の通学路である歩道を介しての搬出入となる。園庭のバス駐車場近くには、遊具スペースが設けられており、バス待機の児童への配慮がなされている。建物は片流れ状の勾配屋根を組み合わせた屋根形状をしており、部屋構成としては、北東側から多目的ホール・玄関・事務室・児童クラブ室・児童玄関・児童クラブ室が並んでおり、それらの諸室を廊下でつないでいるシンプルかつ明確な建物構成である。多目的ホールには図書スペース・一時預かり室等が配置されており、保護者や一般住民にも開放される馴染みやすい空間であり、玄関ホールや事務室によって学童クラブと切り離されるとともに事務室から管理しやすい構成となっている。静養室も事務室と児童クラブ室の間に配置するなど児童の安全面への配慮もうかがえる。室内空間についても、多目的ホールや学童クラブ等の天井の梁を現した柱のない空間とするなど親しみのある空間となるように工夫されている。また、庇を深くすることで日射を遮断しつつ、開放可能な窓と天窓により自然の光と風を部屋に引き入れる計画となっており、ランニングコスト削減への配慮がなされている。また、太陽光パネル設置や雨水利用などの意欲的な提案も見られる。ヒアリング時には、太陽光パネルや雨水利用のコスト増の問題についての説明があったが、あいまいな点も見られた。

建物の配置計画や安全性への配慮、シンプルな建物平面計画、太陽光・雨水利用などが評価されたが、サービス出入口が児童の通学路と交差することや天井梁の現しの内装制限の問題、ヒアリングでも指摘されたコストへの疑問もあり評価が分かれ、惜しくも次点となった。

#### 受付番号①

この案は、敷地北側に楕円形型の施設を配置することで、建物と山の離隔距離を確保するとともに敷地中央部に園庭を配置している。また、建物と園庭をフェンスで囲むことで児童の安全性を確保している。敷地内南西側に県道から小学校への通学路となる歩道が直線的に設けられており、児童の施設への入り口は歩道に近接する施設南西に設けられている。車両の入り口は敷地南東端の県道側に設けられており、児童の動線との分離が図られている。駐車場はマイクロバスと一般の駐車スペースが分けられている。サービス車は、付け替え道路を通って建物東側の通用口や調理室まで児童の動線と交わることのないように計画されている。園庭内にはバス乗降口に近接して遊具が設けられており、バス待機の児童への配慮がなされている。建物形状は児童や保護者にも親しみやすい楕円形で、やわらかい印象を持つ曲線による立面と外部に漆喰と木質を利用して地域に対しても暖かい印象を与えている。部屋構成としては、図書コーナー・相談室を中心として、その回りに設けられた廊下に児童クラブ室・静養室・玄関・事務室・一時預かり室・多目的ホールが取り囲むという児童の回遊性を重視したシンプルかつ明確な建物構成である。事務室は児童入口と玄関ホールの間であり、人の出入りを管理しやすい構成となっている。室内空間についても、多目的ホールの天井の梁を現した柱のない空間とするなど開放感のあるダイナミックな空間となるように工夫されており、天井高を抑えて落ち着きを持たせた他室とメリハリをつけている。また、円形のトップライトにより自然の光と風を部屋に引き入れる計画となっており、ランニングコスト削減への配慮がなされている。さらに太陽光パネルなどの意欲的な提案も見られる。ヒアリング時には、コストアップに対する対策として、材料の種類や規格を統一するなどのコストダウンの方針が示された。

楕円形の形状が与えるインパクトや回遊性のあるコンパクトで明快な平面計画が評価されたが、多目的ホール等の扇型の部屋の使いやすさへの疑問や天井梁現しの内装制限の問題、トイレがクラブ室から遠い位置に配置されていることへの懸念等が最終評価に影響したものと考えられる。

#### 受付番号②

この案は、敷地北西に施設を配置することで、建物と山の離隔距離を確保するとともに敷地北東部に園庭を配置している。児童の敷地への入り口は北西の小学校側であり、施設への入り口は施設南西に設けられている一般者と共用の玄関である。車両の入り口は敷地南東端の県道側に設けられており、児童の動線との分離が図られている。駐車場はマイクロバスと一般の駐車スペースが分けられているが、サービス車の動線は明記されていない。建物形状としては児童や保護者にも親しみやすい3つの円形を含んだ柔らかい雰囲気の外観をしており、柱や梁を現しとした外観も特徴的である。部屋構成としては、特徴的な円形の子育てサロンと児童クラブ2室を南側に配置し、北側に配した多目的ホールが園庭との一体利用に便利な構成となっている。建物内部に関しても、曲がりくねった廊下と構造と一体化された格子壁により、子供たちが室内を探索しながら廊下を移動できるようになっている。室内空間についても、外断熱やハイサイドライトによる自然光利用など室内環境とランニングコスト削減への配慮がなされている。ヒアリング時には、コスト管理として、木材等の見

積もりの精度を上げるなどの概算見直しの方針が示された。

児童の探求心を醸成するようなプラン構成になっていることが評価されたが、敷地内南西側の小学校と県道を結ぶ通学路となる歩道が確保されていないことや、玄関が一か所であり児童と一般者の動線が重なること、調理室への動線が不明確であることなどの懸念が最終評価に影響したものと考えられる。

#### 受付番号⑤

この案は、敷地北側に施設を配置することで、建物と山の離隔距離を確保するとともに敷地中央北部に町民参加のイベント会場を兼ねたグラウンドを設けている。施設と園庭は高さ 1.2m のフェンスで囲み、さらに一般利用のあるグラウンドは高さ 1.8m のフェンスで囲むなど児童の安全に留意している。敷地内南西側に県道から小学校への通学路となる歩道が直線的に設けられており、児童は歩道に近接する施設南西から敷地内に入り、建物東側中央部に設けられている学童用玄関より施設に入る。車両の入り口は敷地南東端の県道側に設けられており、児童の動線との分離が図られている。駐車場はマイクロバス・職員・一般と 3 つの駐車スペースに分けられている。サービス車は、付け替え道路を通過して建物北側の通用口や調理室まで児童の動線と交わることのないように計画されている。建物は諏訪神社の夫婦杉をイメージした大樹の家のような外観をしており、外壁は土壁風仕上げとしている。部屋構成としては、北東側に児童室エリア・北西側に子育て支援エリアと管理エリアを並べて配置しており、それらの諸室を中廊下でつないでいるというシンプルかつ明確な建物構成である。児童クラブ室についても職員スペース、相談室、収納などが配置され、安全面にも配慮されている。室内空間についても、高窓による自然光と換気を確保しているほか、複層+Low-e ガラスやエアスイングファンなど省エネルギーとランニングコスト削減への配慮がなされている。また、ヒアリング時には、コストアップ時の対応として VE 案を用意するなどの方針が示された。

敷地計画については付け替え道路をうまく使ったサービス動線が考えられており、歩道についても県道との段差は階段を用いず迂回してフラットにするなど工夫がみられる。また、フェンスを幾重にも設けるなど児童の安全に配慮している。屋根の複雑な形状や省エネルギーに配慮した分、コストへの不安があり、静養室の位置についても事務室から見えにくいことなどの懸念が最終評価に影響したものと考えられる。

#### 受付番号③

この案は、工事費概算額が想定した条件を大きく超過しているため審査対象外となったが、印象的なひし形をイメージさせる屋根をもつ建物を敷地のほぼ中央に配置し、北側に園庭を配置するとともに事務室を園庭が見渡せる位置に配置している。また、駐車場を園庭と反対側の南側に配置するなど児童の安全に配慮している。建物形状は金属性の素材を用いた大屋根とし、室内は鉄骨トラスを現しとした大空間を計画している。実現すれば、町のシンボルとなりうる印象的な形状をしている。一時審査で審査対象外とせざるを得なかったことは残念である。